

大阪都構想への賛成度と居住地域への愛着傾向の関連性に関する実証分析

小林 快斗¹・沼尻 了俊²・川端 祐一郎³・藤井 聡⁴

¹学生非会員 京都大学大学院 都市社会工学専攻 (〒615-8243 京都府京都市西京区京都大学桂)
E-mail: kobayashi.k@trans.kuciv.kyoto-u.ac.jp

²学生員 京都大学大学院 都市社会工学専攻 (〒615-8243 京都府京都市西京区京都大学桂)
E-mail: numajiri@trans.kuciv.kyoto-u.ac.jp

³正会員 京都大学大学院助教授 都市社会工学専攻 (〒615-8243 京都府京都市西京区京都大学桂)
E-mail: kawabata.yuichiro@trans.kuciv.kyoto-u.ac.jp

⁴正会員 京都大学大学院教授 都市社会工学専攻 (〒615-8243 京都府京都市西京区京都大学桂)
E-mail: fujii@trans.kuciv.kyoto-u.ac.jp

大阪都構想は、政令指定都市である大阪市（又は大阪市と堺市）を廃止・分割して財源と権限の一部を大阪府に移譲するという改革であり、2015年の大阪市における住民投票では否決されたものの一定の支持を集めていた。大阪市や堺市の住民にとっては自治権が損なわれる面も存在することから、地域住民の利害得失を考えるのみではその支持の要因の説明が難しい。既往研究において、大阪市民における大阪都構想の支持要因として「地域アイデンティティ」の希薄さ挙げられており、この点について社会心理学的側面からの定量的検証を行うため、本研究では2017年堺市長選挙を控えた時期に堺市民を対象にアンケート調査を行った。分析の結果、地域アイデンティティの希薄な住民ほど、大阪都構想への高い賛成意識を示す傾向が見られ、前述の仮説が支持される結果となった。また、大衆扇動的という意味でのポピュリズムの傾向が、大阪都構想への支持意識を強める要因となっている可能性も示唆された。

Key Words: *Osaka metropolis plan, Populism, Regional identity, Human alienation*

1. 本研究の背景と目的

大阪府において地域行政の方向性を大きく左右する大型の行政機構再編案である「大阪都構想」が、大阪府下において地域住民の一部から（多数派を形成するには至っていないものの）根強く支持されてきた。日本の中で文化的・政治的・産業的に大きな役割を果たす大阪市や堺市の今後の在り方を大きく左右する分岐点となるのが大阪都構想であるが、その支持背景について実証的に分析を行っている研究は少ない。

後述するように大阪都構想は、当該地域住民の利害から単純に支持の動機を説明することが難しく、社会心理学的側面からその支持者像について検討を行うことには、現代日本の地方自治のあり方を捉える上で重要な意義があると考え、本研究では大阪都構想の支持層がどのような社会心理学的背景を持つ住民によって形成されているのかを分析した。

(1) 大阪都構想の概要

大阪都構想は、大まかな枠組みとしては、政令指定都市としての大阪市や堺市を独立した地方公共団体としては廃止し、いくつかの「特別区」に分割した上で、基礎自治体としての業務を特別区に担わせるとともに、広域的な行政の権限と財源については大阪府に移譲するという構想である。これにより、旧大阪市・堺市が有していた権限と財源の一定割合が、当該地域の課題解決のみならず、大阪府全域における課題解決の取り組みに統合される。

そして2015年5月17日、大阪市を廃止し、「北区」、「湾岸区」、「東区」、「南区」、「中央区」の5つの特別区を設ける内容の協定書に対する大阪市の住民投票が行われた。結果は、反対約70万票、賛成約69万票となり、僅差で特別区設置は否決された。

(2) 大阪都構想実現時の権限と財源の配分について

大阪都構想は、旧政令市の財源の一部（約四分の一程

度)が大阪府の裁量下に置かれるようになり、旧政令市外の行政サービスにも充当される可能性があることから、中心都市から周辺都市への再分配的な側面を持つ政策であると言える。また、大型の都市政策をおこなう場合に、大阪市・堺市であれば政令指定都市であるが故に有する広範な権限により地域住民の合意と負担により実施可能だったものが、その権限を大阪府に移譲することで、地域外の住民(の代表者たる府議)の合意が必要になるという可能性を持つ。大阪府全体に占める大阪市民の割合が3割、堺市民の割合が1割程度であることを考えると、現大阪市民や堺市民の望む政策に対して、必ずしも府議会の合意が得られるとは言えない。

以上のことを考えると、大阪市・堺市の住民にとっては、財源や地域行政の決定権が自地域から「流出」する事態でもあったとも考えられ、自らの利害を損ねる面もある可能性がある。単純な利害関係を鑑みた場合、この両市の住民が都構想を「支持」する理由を合理的に説明することが難しく、むしろ、少なくとも自身の自治体の財源や権限がより大きい方が望ましいと考える有権者は、大阪都構想に対して否定的な態度を形成する可能性が高くなると考えられる。

2. 既往研究

大阪都構想については様々な問題点が指摘されており、特に前章で見たようにある面では(税収等の域外流出を通じて)当該地域住民の利害を損ねる可能性もあるのであるが、それにもかかわらず、2015年に実施された大阪市の住民投票では半数近い投票者が賛成票を投じたのであった。この賛成という投票行動は、どのような要因に基づいてなされたと言えるのであろうか。

(1) 大阪都構想の支持要因に関する既往研究

土倉¹⁾は、総じて都構想が大阪の経済・教育・医療の再生をもたらすという根拠は乏しいと言うのであるが、それにもかかわらず上述のとおり多くの有権者が都構想を掲げる維新の会の政策に賛意を示したのは、「大阪府民や大阪市民の政治的欲望が『中道政党』では飽き足らなく」なり、「政治的情念がより原理主義的な方向に向かう」維新の会に票が集まったという現象であろうと述べている。

薬師院²⁾は、住民の転居の頻度の高さが都構想への賛意を誘起させていたのではないかと分析している。「世代を超えた地域アイデンティティ」の希薄さが、自治体を解体するという都構想への賛意に繋がっている可能性を指摘しており、そのことを示すために大阪市内の各区の人口移動のデータを参照している。具体的にいうと、

北区・西区・中央区・淀川区・福島区等では維新の会の支持率が高いのであるが、これらの地区においては住民の転入率・転出率がともに高く、逆に維新の会の支持率の低い平野区・旭区・大正区等では、これらの率が低くなっているのである。加えて薬師院は、維新支持率の高い地域における「非高齢単身世帯」の多さに注目している。現役世代でかつ単身であるということは、子育て等を通じて地域社会に深くコミットすることも無いし、現役世代であるから(高齢者や子供に比べれば)勤労等を通じて他地域との関係を多く持つ傾向があり、このことから「地域の間人間関係」が相対的に希薄になると考えられるのである。さらに、維新の会に対する支持率の高い淀川区や福島区においては、昼間人口が夜間人口を上回っており、そもそも濃密な地域コミュニティを持つ傾向が低いと考えられるという地域特性がある。

(2) 維新の会の支持要因に関する研究

善教³⁾は維新の会の支持背景について実証的な分析をいくつか行っているが、維新の会に関する既存の研究の大半は「ポピュリズム」論の観点から橋下徹の言動等を批判的に分析するものか、大阪都構想をはじめとする維新の会の政策の内容について考察を加えるものが殆どで、「なぜ、維新の会がこれほどまでに台頭してきたのか」という支持要因に関する実証的な分析はほとんど存在してこなかったと述べている。

善教はWebを通じたアンケート調査によって維新の会に対する支持の背景を分析しており、例えば2011年の大阪ダブル選における有権者の投票要因について、候補者が掲げる「政策」を吟味して投票したというよりは、「政党」のラベルのほうが重要な要因であったと述べている。たとえば大阪府知事となった松井候補に関しても、彼が掲げた主張について有権者が賛意を示したからというよりは、「他の政党よりも維新の会のほうが良い」という政党ベースの支持意識によって当選したと言うわけである。

また善教は、維新の支持背景に関する(政治評論等而言及される)「通説」のいくつかについてデータから検証を行っている。たとえば、維新の支持背景は「ポピュリズム」にあるとの説は多く唱えられており、「政治的・社会的疎外意識」(これは概ね、政治的・経済的・社会的な弱者であることを意味する)を持った住民層が、既存の政治体制への反発から改革を求め、維新に対する支持を形作っているとの主張が存在してきた。しかし善教の分析によれば、社会的に立場の弱い層が維新を支持しているという傾向はみられず、むしろ傾向としては世帯収入の多い層のほうが、維新の会の候補者に投票する傾向がある。また、既存政党による政治に対する「不信」が維新の支持を支えているという明確な傾向も得られず、

むしろ「維新の会」に対する信頼感が支持背景にあると分析されている。政治不信は無党派層を増加させる効果は持つものの、政治不信故に維新の会を支持するようになったというわけではないのである。

また、橋下徹氏個人に対する「熱狂的な支持」が存在するとの説も存在するものの、善教は「支持方向」と「支持強度」を分けた分析の中で、政党支持の強度を「熱狂」「穏健」「潜在」「拒否」の4段階に分類して分析したところ、「穏健」や「潜在」に属する支持層が厚いということが明らかとなった。つまり大阪の有権者は、強い意思を持って維新の会を支持しているというよりは何となく他政党よりも良い政党であるというイメージを有しているのであり、このことは、維新の会の支持基盤が揺らぎやすいものであることをも意味していると善教は述べる（ただし現実の歴史的推移として、維新の会に対する支持はその後一貫して高い水準を維持していることから、この善教の分析については慎重な解釈が求められ、今後の要検討事項となるであろう）。

さらに善教は、維新の会の支持要因について客観性の高いデータを得るために、実験的手法による検証を行っている。この実験は国政選挙を想定してWeb上のシステムを用いて行われたものであり、被験者に対して「おおさか維新の会が以下ようになったと想像して下さい」という文言から始まる教示文を提示することで、維新の会の性質が様々な方向に変化した場合の支持意識の変化を観察している。維新の会の性質について変化させる項目は、「党首が誰であるか（橋下徹・松井一郎・吉村洋文等）」「党本部がどこに所在するか」「関西出身の議員が何割いるか」「政策は何を重視しているか」「国会議員や公務員の削減についてどの程度主張しているか」である。またあわせて政治状況の変化として、政権与党が他党を吸収して拡大した場合や分裂した場合、野党が合併した場合や分裂した場合といったシナリオも、教示として与えている。この実験的研究から示唆されているのは、維新に対する支持意識は総じて「維新の会は大阪を代表する政党である」というイメージがベースとなっており、政策が問題なのではなく「地域代表性」こそが維新の会の支持要因であるということである。

(3) 既往研究の課題と本研究の位置づけ

大阪都構想の支持要因を分析する上では、これらの研究にはいくつかの限界がある。まず、「都構想への支持」の分析にはなっておらず、維新の会への支持要因の分析がほとんどである。もちろん両者に重なるところも多いであろうとも推測されるが、より正確な分析のために、「都構想支持」に明示的に着目した分析が求められる。

「大阪代表であること」が維新の会の支持基盤であるという一方で、地域アイデンティティの低さが都構想支

持者の特徴であるという示唆も得られている。これは解釈に注意を要する点であるが、必ずしも矛盾する知見であるとも言えない。「大阪」という大まかな地域ブランド・イメージに対する愛着はあっても、現実の身の回りの人間関係に深くコミットしているわけではないということは想定可能だからである（たとえば、取り立てて国益を護るための活動に積極的に身を投じているわけではない人が、自国を賛美する言説に肯定的な感情を抱くという現象は、さほど不自然なものではないであろう）。ただ、地域アイデンティティの低さが都構想及び維新の会に対する支持者の特徴であるとの薬師院の指摘は、転出入の頻度や非高齢単身世帯の割合等から間接的に推測されたものであり、現実に当該居住者の心理的な「地域アイデンティティ」の度合いを計測したものではないため、心理学的手法を用いた検証が求められるであろう。

「ポピュリズム」について、確かに「弱者に媚びる」という意味でのポピュリズムは、善教の指摘のとおり維新支持の要因として観察されないかもしれないが、「大衆扇動的」であることの影響があるか否かは別途検討に値するであろう。前述の土倉の研究も、厳密には維新の会あるいは橋下徹の、（大衆層に媚びるという意味での）「ポピュリスト」としての性質と、（扇動的であるという意味での）「デマゴグ」としての性質は区別して論じるべきであると指摘している。ただ、現実にはこの両者が混合した意味で「ポピュリズム」という用語が用いられる場合も多い。本研究では、「ポピュリズム」「ポピュリスト」と述べる場合、主として後者の意味で用いることとする。

以上により、本研究では、直接的に「大阪都構想」に対する賛否意識を問い、住民の心理的性質としての「地域アイデンティティ」を直接的に計測して都構想賛成度との関係を検証するための実証分析を行うこととする。また、地域アイデンティティとの関連性の検証が本研究の主眼であるが、あわせて、上述のような既往研究の指摘を考慮し、ポピュリズム的傾向が都構想への賛成要因となっているか否かも検証する。

3. 研究手法

(1) 調査法

インターネット調査サービス「楽天リサーチ」の堺市在住のモニター500人を対象に、2017年7月20日から7月24日にかけてアンケート調査を実施した。回答の偏りや、回答時間の短さなどが極端なものを除いた479名を分析対象とする。

(2) 回答者の個人属性

回答者の男女比、地域別分布、職業構成をそれぞれ以下表-1、表-2、表-3に示す。表3-2には2017年7月当時の人口分布割合（国勢調査結果を基礎とし、住民基本台帳人口の増減を元に堺市が計算し公表している）も記載している。回答者の東区と中区の人口割合が実際の割合と逆転してはいるものの、その他の項目については実際の割合を概ね反映しており、全体的見て偏りは少ないと考えられる。

表-1 男女比

	度数	割合 (%)
男	230	48
女	249	52
合計	479	100

表-2 地域別分布

区	度数	回答者の居住割合 (%)	実際の居住者割合 (%)
堺区	102	21.3	17.7
東区	63	13.2	10.2
西区	77	16.1	16.3
南区	85	17.7	17.2
北区	92	19.2	19
中区	45	9.4	14.8
美原区	15	3.1	4.6
合計	479	100	100

表-3 職業

職業分類	度数	割合 (%)
農業・林業・水産業	1	0.2
鉱業・建設業・製造業	55	11.5
電気・ガス・水道	5	1
金融・保険業	12	2.5
IT・通信・インターネット	25	5.2
報道・メディア	3	0.6
サービス業	122	25.5
公務員	14	2.9
学生	10	2.1
専業主婦・主夫	95	19.8
無職	66	13.8
その他：	71	14.8
合計	479	100

(3) 都構想賛成度

大阪都構想への賛意の度合いを測定するため、「あなたは、大阪都構想の内容を知っていますか」という質問に対し、「とてもそう思う」から「全くそう思わない」

までの7件法で回答を求めた。

(4) 地域愛着尺度

回答者の「地域アイデンティティ」の形成度合いを計測するため、荻原ら⁷⁾が開発し鈴木ら⁸⁾も用いた「地域愛着尺度」（表-4）の各項目について、「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの7件法で回答を求めた。

本尺度は「地域愛着（選好）」「地域愛着（感情）」「地域愛着（持続願望）」の3つの下位尺度に分かれており、「地域愛着（選好）」は個人的な嗜好の観点から当該地域を肯定的に評価する程度を、「地域愛着（感情）」はそうした嗜好を越えて、当該地域に対して「慣れ親しんだものに深くひかれ、離れがたく感じる」程度を、そして「地域愛着（持続願望）」とは、嗜好や感情といった現状の地域に対する認知的、情緒的な心的関与のみを意味するのではなく、地域のあり方そのものに対して「願い」を抱くという地域愛着を意味するものである。ただしこれら下位尺度間の差異が極めて小さく全体での信頼性係数（クロンバックの α ）も0.97と高かったことから、本研究では全体平均を主に分析に用いている。

表-4 地域愛着尺度項目

下位尺度名	質問項目
地域愛着 (選好)	1.堺市は住みやすいと思う
	2.堺市にお気に入りの場所がある
	3.堺市を歩くのは気持ちよい
	4.堺市ではリラックスできる
	5.堺市の雰囲気や土地柄が気に入っている
	6.堺市が好きだ
地域愛着 (感情)	7.堺市は大切だと思う
	8.堺市に自分の居場所がある気がする
	9.堺市にずっと住み続けたい
	10.堺市に愛着を感じている
	11.堺市は自分の街だという感じがする
地域愛着 (持続願望)	12.堺市にいつまでも変わって欲しくないものがある
	13.堺市になくなってしまうと悲しいものがある

(5) 人間疎外尺度

回答者の所属する「家族」「地域」「組織（学校、社会等）」「国家」という4つの共同体への帰属意識を計測する尺度として、羽鳥ら⁹⁾が開発した「人間疎外尺

表-5 人間疎外尺度の質問項目

下位尺度 質問項目名	質問項目
人間疎外 (家族)	1.自分と自分の家族とは一心同体だという感じがする. * 2.家族とは, 家族の中の一人一人の人間関係の集合にしかすぎないと思う. 3.自分は自分の家族というものをとても身近なものとして自然に感じる. * 4.結婚した人はその新しい家族に自らをなじませるのが当たり前だと思う. * 5.もしも自分一人の利益と家族全体の利益が対立したら, どちらを優先しますか. *
人間疎外 (組織)	1.自分と自分の住んでいる地域とは一心同体だという感じがする. * 2.地域社会とは, 地域の中の一人一人の人間関係の集合にしかすぎないと思う. 3.自分は自分の住んでいる地域というものをとても身近なものとして自然に感じる. * 4.自分が住んでいる地域に自らをなじませるのは当たり前だと思う. * 5.もしも自分一人の利益と自分の住んでいる地域全体の利益が対立したら, どちらを優先しますか. *
人間疎外 (地域)	1.自分と自分の属する組織 (企業・学校等) とは一心同体だという感じがする. * 2.企業や学校等の組織とは, 組織の中の一人一人の人間関係の集合にしかすぎないと思う. 3.自分は自分の所属する組織 (企業・学校等) というものをとても身近なものとして自然に感じる. * 4.自分が所属する組織 (企業・学校等) に自らをなじませるのは当たり前だと思う. * 5.もしも自分一人の利益と組織 (企業・学校等) 全体の利益が対立したら, どちらを優先しますか. *
人間疎外 (国家)	1.自分と国家とは一心同体だという感じがする. * 2.国家とは, 国家の中の一人一人の人間関係の集合にしかすぎないと思う. 3.自分は国家というものをとても身近なものとして自然に感じる. * 4.自分が住んでいる国家のあり方に自らをなじませるのは当たり前だと思う. * 5.もしも自分一人の利益と国家全体の利益が対立したら, どちらを優先しますか. *

*: 逆転項目

表-6 都構想賛成度を従属変数とする重回帰分析結果

説明変数	標準化偏 回帰係数	t値	有意確率
(定数)		12.09	0.01 **
地域愛着尺度 (全体平均)	-0.18	-4.09	0.01 **
人間疎外 (家族)	-0.20	-4.41	0.01 **
周囲の意見依存度	0.10	2.22	0.03 *
Twitter依存度	0.08	1.72	0.09 †
暴言許容度	0.20	4.62	0.01 **

(N=479, 調整済みR²=0.09) †: p < .10; *: p < .05; **: p < .01

度」(表-5)を使用する。人間疎外尺度は共同体ごとに「一心同体感」「共同体全体の非認知」「共同体への親近意識」「自己断念」「共同体への奉仕」を計測5つの質問項目からなっている。「とてもそう思う」から「全くそう思わない」の7件法で回答を求めた。

(6) ポピュリズム傾向等その他の質問項目

その他にも、賛成度に影響を与えると考えられるいくつかの変数について回答を得ており、質問項目の詳細は付録に示すとおりであるが、その中に含まれる「『自分の周りの人』の意見はどうか(投票先を決定するうえ

で)」「期待できる政治家ならどんな暴言を吐いても問題ない」等の質問は、ポピュリズム的政治手法に対する回答者の親和性を示していると考えられる。

4. 分析結果

(1) 都構想賛成要因の分析(重回帰分析)

都構想賛成度の得点を従属変数とし、その他の質問の得点を説明変数とする重回帰分析を行う。モデル全体の当てはまりと、統計的に有意であるか否かを考慮して変

表-7 地域愛着尺度及び人間疎外尺度と都構想賛成度の単相関

	地域愛着尺度		人間疎外尺度		
		家族	組織	地域	国家
都構想賛成度との相関係数	-0.12 **	-0.14 **	-0.14 **	-0.07	-0.16 **

(N=479) *: p < .05 ; **: p < .01

数選択を行った結果として、地域愛着尺度と人間疎外尺度の他に、「周囲の意見依存度」（投票時に、「『自分の周りの人』の意見はどうか」ということをどれだけ重視するか）、「Twitter依存度」（政治に関するメディア情報としてTwitter上の情報をどれだけ重視しているか）、「暴言許容度」（「期待できる政治家ならどんな暴言を吐いても問題ない」と考える度合い）を説明変数とした分析結果を表-6に示す。

分析結果を確認すると、地域愛着度に関して有意な負の影響が確認された。これは、地域への愛着が低ければ低いほど、都構想に賛成する傾向が強いという意味合いであり、薬師院の研究で示唆された「地域アイデンティティの希薄さが都構想支持に繋がっている」との指摘と合致する結果である。

一方で人間疎外尺度については「人間疎外（家族）」の項目のみで有意な負の影響が確認され、他の下位尺度（地域・組織・国家）については有意な影響がないことが確認されたため、報告しているモデルには「人間疎外（家族）」のみが説明変数として含まれている。これは、家族からの疎外の度合いが高いほど都構想賛成度が下がることを意味している。

次にポピュリズム傾向を表す可能性があると考えられる項目についてであるが、周囲の意見依存度について統計的に有意、Twitter依存度について有意傾向 ($p < .10$) の効果が存在した。つまり、「周りの人の意見に左右されやすい人ほど、都構想に賛成する」「Twitterをよく参照する人ほど都構想に賛成する」という結果である。また「暴言許容度」は、期待をかける候補者が公的に暴言とみなされる言動を行うことについての許容度であり、都構想賛成度に対して有意な正の効果を持っていた。これらの結果は、「周囲の意見に左右されやすく、Twitterを通じた情報の影響を強く受け、自分の支持する候補者が暴言を吐いても許容できる」傾向が強いほど、大阪都構想を賛成する傾向があることを示している。

(2) 都構想賛成要因の分析(単相関分析)

重回帰モデルにおいて人間疎外尺度は「家族」を除く下位尺度について統計的に有意な効果が見られなかったが、ここで人間疎外尺度の下位尺度間の差異を都構想賛

成度との関係において確認するため、都構想賛成度とそれぞれの間の単相関を計算した結果を示す(表-7)。

いずれにしても相関が小さいのであるが、「家族」「組織」「国家」からの疎外が弱い負の相関をもつものに対して「地域」からの疎外は無相関となっている。これは、「家族」や「組織」といった身近に利害を感じやすい共同体や、「国家」という（身近ではないが故に）象徴的なイメージとしての性質の強い共同体単位からの疎外度が低い（帰属感が強い）人ほど都構想賛成度が高まるのに対し、「地域」というその中間に当たる共同体に関してはそうではない、ということを示している。その解釈については次章で述べる。

5. 考察

(1) 地域愛着度、人間疎外尺度との関係から

地域愛着度が都構想賛成度に対して有意な負の影響を有することから、薬師院の研究において指摘されていた、「地域アイデンティティの薄い人が大阪都構想を支持する」という仮説は支持される結果となった。言い換えれば都構想は、地域社会に対する強いコミットメントを持たない、「根無し草」¹⁰的な人々によって支持される傾向があると解釈し得るのである。地域アイデンティティが希薄な、「根無し草」的な住民が、当該地域の将来を大きく左右する政策についてリアルな実感を持って真剣に検討した上で投票したかについては、大いに疑問であると言えるであろうから、この結果は都構想を支持する世論に対しては注意深い解釈が必要であることを示唆している。

またこの結果は、大阪都構想という一つの政策の是非判断を超えて、重要な現象を示唆していると考えられることも可能である。なぜなら「地域に対し強いアイデンティティを持たない住民から賛成され易い」ような改革施策が、これだけ大きな社会的関心を呼ぶということ自体が、地方自治の健全性について大いなる懸念を抱かせるものとも考えることも可能だからである。

また、重回帰分析の結果からは、人間疎外尺度のうち「家族」からの疎外だけが統計的に有意な負の効果を持

ったことが示された、つまり「家族から疎外されていない人ほど、都構想に賛成する傾向が強かった」という結果が得られた一方で、「地域」「組織」「国家」についてはそうは言えなかったということである。これはつまり、都構想に賛成人々は反対する人々に比べて、家族という最もプライベートな共同体における利害等には強い関心を持っている傾向があるが、例えば地域のようにそれよりも大きくパブリックな共同体に関してはそうではない、ということの意味する。公共政策に関する適切な判断を為す上で、公的な共同体へのコミットメントを持つことが重要であるとするならば、この結果は、都構想という公共政策が、必ずしも健全とは言い難い世論によって支持されていたという可能性を示しているとも考えることもできる。

また、単相関分析より、「家族」「国家」「組織」のそれぞれの疎外意識については、都構想支持との間に負の相関があった一方で「地域」についての疎外意識については無相関であった。これについては様々な解釈があり得、今後のさらなる分析が必要な点ではあるが、一つの解釈として次のようなことが言えるのではないか。

「家族」や「組織」は比較的プライベートな利害を持ちやすい共同体である一方で、「国家」は多くの人々にとって、身近というよりは象徴的なイメージとして存在するという面の強い共同体単位である。つまり今回計測された国家への帰属意識の強さ（疎外の低さ）というものが、生活の実感を伴わない、名目的な意味での愛国的心理を反映しているという可能性を指摘することができる。

「地域」というのはそれらの中間に当たる共同体単位であり、プライベートな利害を超えた帰属意識の対象である一方で、名目的な愛国主義のように内実の伴わない帰属意識の対象にはなりにくく、真の意味での公共心を伴ったコミットメントが求められる共同体単位であるとも考えられよう。だとするならば、大阪都構想への支持はそのような意味での公共心に基づいているとは言えなかったという点で、やはり地方自治における大規模改革を支持する世論現象としては、必ずしも健全なものであるとは言えなかったと理解できるのではないだろうか。

(2) その他尺度との関係から

また、大衆扇動的という意味でのポピュリズム傾向との関係として、Twitter参照度の高い住民ほど都構想賛成度が高いという結果が得られた。Twitterは度々「炎上」が話題になるメディアであり、テレビ以上に大衆扇動性が高いメディアであると考えられることができるだろう。また、周囲の意見への依存度が高い人ほど都構想賛成度が高かったという結果からは、都構想への支持が理性的な判断というよりは、無批判な社会的伝播によって築き上げられている可能性を示しており、これも大衆的扇動現

象の一側面であると解釈することもできよう。暴言許容度についてはいくつかの解釈があり得る。「その候補者が唱える政策に理があるならば、人格上の問題には目をつむる」という態度は、ある意味では理性的態度であるとも言える。しかし一方で、政治家の暴言はしばしば「炎上」を招き衆目を集めるのであるが、こうした炎上現象を否定的に捉えないという傾向を意味している可能性があり、ある面ではポピュリズム的扇動と親和的であるとも言えるであろう。

いずれにしても、これらの結果から、大阪都構想が大きな社会現象となったのは「地域アイデンティティの希薄さ」に加えて「ポピュリズム的扇動」の結果であるという可能性は無視できないと理解でき、都構想をめぐる地方自治の進め方が健全であるかどうかについて、大いに疑問を抱かざるを得ないと言えるだろう。

6. 本研究の成果と課題

この分析によって得られた主要な結果は以下に挙げる2点である。

第一に、「地域アイデンティティの低い有権者は、そうではない有権者に比べ、大阪都構想案をより強く支持している傾向がある」ということ。第二に、「ポピュリズム的扇動を受けやすいと考えられる有権者が、より強く都構想を支持している可能性がある」ということである。

これらを総合すると、大阪都構想をめぐる一連の政治過程は、「地域アイデンティティが希薄な『根無し草』的住民に対し、『大衆扇動的』な方法を用いた説得を行うことで、一定の支持を集める」という傾向を持っていたという可能性を示唆するものと解釈することができるであろう。いうまでもなくこれは、地方自治における大掛かりな公共政策の決定プロセスのあり方として、健全であるとは言い難いと考えることができよう。

なお、本研究には多くの限界が存在している。まず本研究では重回帰分析の中で「人間疎外尺度」を用いたのであるが、「組織」「地域」「国家」という3つの下位尺度は都構想賛成度に対して有意な効果を持たなかった。

「地域愛着尺度」については仮説を支持する結果が得られているものの、この人間疎外尺度との関係については疑問が残る結果となった。渡邊ら¹⁴⁾は人間疎外尺度と大衆性尺度を用いた研究の中で「ヘーゲルの論ずる『人間疎外』に陥っている存在こそが、オルテガの論ずる大衆人であり、そうした人々は、社会的に好ましくないと考えられる近代人特有の種々の態度や行動を形成している」と述べており、大衆性という概念との関係についても示唆されているので、今後大衆性尺度も組み込んだ分析を

行うことが考えられる。

また、本研究で用いたポピュリスト的傾向の指標は、ポピュリズム研究の文脈を厳密に捉えた上で設定されたものではない。既往のポピュリズム研究に基づき、たとえば弱者迎合性と大衆扇動性の区別についての理論的に整理に基づいて再検討するなど、より適当な分析の検討の余地はあるであろう。

しかし、以上のような限界点があるとは言え、大阪都構想に対する支持現象が、地方政治過程のあり方として健全性を疑わざるをえないと理解可能な結果が得られたことには変わりはなく、本研究の知見は大きな問題提起たり得ると言えるのではないかと。仮に、大阪都構想という具体的政策そのものは今後議論が再燃することが無かったとしても、同様の性質をもった政治現象が別の政策をテーマに再び巻き起こる可能性はあり得るため、実証研究の蓄積をさらに進め、将来のよりよい政治的決定に資することが期待される。

付録：全質問項目

<p>Q1. お住まいの場所はどこですか。 1. 堺区 2. 東区 3. 西区 4. 南区 5. 北区 6. 中区 7. 美原区 8. 上記以外</p>
<p>Q2. 堺市に通算何年間住んでいますか。 (半角数字でご記入ください) ※自由回答</p>
<p>Q3. 現在のあなたのお住まいの同居者人数を教えてください。 (半角数字でご記入ください) ※自由回答</p>
<p>Q4. 政治に関して、以下のメディアの情報をどのくらい参考にしていますか。 (矢印方向にそれぞれひとつだけ) 1. 見ない 2. 見るが、全く参考にしていない 3. 見るが、あまり参考にしていない 4. 少し参考にしている 5. 非常に参考にしている</p>
<p>1 一般紙 2 地方紙 3 スポーツ新聞 4 週刊誌 5 テレビ 6 インターネット上のニュース 7 Twitter 8 ブログ 9 政党・政治家のホームページ 10 その他、インターネット上の情報</p>

<p>Q5. 以下のテレビ番組をどれくらい見えていますか。(矢印方向にそれぞれひとつだけ) 1. 見ない 2. たまに見る 3. よく見る 4. 毎回見る</p>
<p>1 情報ライブミヤネ屋 (10ch、月曜～金曜 13時55分～15時50分、宮根誠司) 2 そこまで言って委員会 (10ch、日曜 13時30分～15時、幸坊治郎) 3 ビートたけしのTVタックル (6ch、日曜 12時～12時55分、ビートたけし) 4 とくダネ! (8ch、月曜～金曜 8時～9時50分、小倉智昭) 5 スッキリ!! (10ch、月曜～金曜 8時～10時25分、加藤浩次) 6 羽鳥慎一モーニングショー (6ch、月曜～金曜 8時～9時55分、羽鳥慎一) 7 ビビット (4ch、月曜～金曜 8時～9時55分、国分太一) 8 NHK ニュース 9 報道ステーション (6ch、月曜～金曜 21時54分～23時10分、富川悠太) 10 行列のできる法律相談所 (10ch、日曜 21時～21時54分、東野幸治) 11 せやねん! (4ch、土曜 9時25分～12時54分、トミーズ雅) 12 教えて!ニューズライブ 正義のミカタ (6ch、土曜 9時30分～11時、東野幸治) 13 あさパラ! (10ch、土曜 9時25分～10時30分、ハイヒールりんご) 14 みんなのニュース 報道ランナー (8ch、月曜～金曜 16時47分～19時、新実彰平) 15 かんさい情報ネットten (10ch、月曜～金曜 16時47分～19時、中谷しのぶ) 16 キャスト (6ch、月曜～金曜 16時58分～19時、浦川泰平) 17 ちちんぷいぷい (4ch、月曜～金曜 13時55分～17時50分、山中浩之) 18 VOICE (4ch、月曜～金曜 18時15分～19時、西靖)</p>
<p>Q6. いろいろな選挙 (国政・府知事選・市長選など) で、「誰に投票するか」という判断には、以下のそれぞれは、どれくらい「関係」していますか。(矢印方向にそれぞれひとつだけ) 【7件法】</p>
<p>1 候補者の「所属政党」がどこか 2 候補者の「政策」がどのようなものか 3 候補者の「人柄」はどうか 4 「おもしろい」候補者かどうか 5 候補者の「知名度」はどうか 6 候補者に対する新聞、テレビ等のマスメディアの「評価」はどうか 7 「改革」できるかどうか 8 「古い政治から脱却できる」かどうか 9 「自分の周りの人」の意見はどうか</p>

<p>Q7. 前回の大阪府知事選挙（2015年11月）ではどの候補者に投票しましたか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 松井一郎（現職知事） 2. 栗原貴子 3. 美馬幸則 4. 無記入または不投票 5. 転居・年齢が理由で投票権がなかった 6. 覚えていない
<p>Q8. その投票先を決定した際に、以下のそれぞれはどれくらい関係していましたか。（矢印方向にそれぞれひとつだけ）【7件法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 候補者の「所属政党」がどこか 2 候補者の「政策」がどのようなものか 3 候補者の「人柄」はどうか 4 「おもしろい」候補者かどうか 5 候補者の「知名度」はどうか 6 候補者に対する新聞、テレビ等のマスメディアの「評価」はどうか 7 「改革」できるかどうか 8 「古い政治から脱却できる」かどうか 9 「自分の周りの人」の意見はどうか 10 「大阪都構想」を実現できるかどうか 11 「橋下徹」への期待感 12 「堺」の未来がよくなるかどうか 13 「大阪」の未来がよくなるかどうか 14 「日本」の未来がよくなるかどうか 15 「堺を守れる」かどうか
<p>Q9. 前回の堺市長選挙（2013年9月）ではどの候補者に投票しましたか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 竹山修身（現職市長） 2. 西林克敏（「維新の会」の候補者） 3. 無記入または不投票 4. 転居・年齢が理由で投票権がなかった 5. 覚えていない
<p>Q10. その投票先を決定した際に、以下のそれぞれはどれくらい関係していましたか。（矢印方向にそれぞれひとつだけ）【7件法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 候補者の「所属政党」がどこか 2 候補者の「政策」がどのようなものか 3 候補者の「人柄」はどうか 4 「おもしろい」候補者かどうか 5 候補者の「知名度」はどうか 6 候補者に対する新聞、テレビ等のマスメディアの「評価」はどうか 7 「改革」できるかどうか 8 「古い政治から脱却できる」かどうか 9 「自分の周りの人」の意見はどうか 10 「大阪都構想」を実現できるかどうか 11 「橋下徹」への期待感 12 「堺」の未来がよくなるかどうか 13 「大阪」の未来がよくなるかどうか 14 「日本」の未来がよくなるかどうか 15 「堺を守れる」かどうか 16 竹山市長の4年間の実績

<p>Q11. 次回の堺市長選挙（2017年9月）の投票に行こうと思いますか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行く 2. 行かない 3. 分からない
<p>Q12. 現段階で、堺市長選挙（2017年9月）で投票する予定の候補者は誰ですか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 竹山修身（現職市長） 2. 永藤英機（「維新の会」の候補者） 3. その他
<p>Q13. 次回の堺市長選挙（2017年9月）で、あなたが投票先を決する際、以下のそれぞれはどれくらい関係しますか。（矢印方向にそれぞれひとつだけ）【7件法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 候補者の「所属政党」がどこか 2 候補者の「政策」がどのようなものか 3 候補者の「人柄」はどうか 4 「おもしろい」候補者かどうか 5 候補者の「知名度」はどうか 6 候補者に対する新聞、テレビ等のマスメディアの「評価」はどうか 7 「改革」できるかどうか 8 「古い政治から脱却できる」かどうか 9 「自分の周りの人」の意見はどうか 10 「大阪都構想」を実現できるかどうか 11 「橋下徹」への期待感 12 「堺」の未来がよくなるかどうか 13 「大阪」の未来がよくなるかどうか 14 「日本」の未来がよくなるかどうか 15 「堺を守れる」かどうか 16 竹山市長の4年間の実績 17 「維新の会」への期待感
<p>Q14. 堺市長選挙（2017年9月）では、アナウンサーの清水健（通称：シミケン）が出馬することが取り沙汰されていました。もし、清水健が出馬していた場合、どの候補者に投票していましたか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 竹山修身（現職市長） 2. 清水健（シミケン） 3. その他
<p>Q15. あなたは、大阪都構想の内容を知っていますか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. よく知っている 2. なんとなく知っている 3. どちらとも言えない 4. あまり知らない 5. 全く知らない
<p>Q16. あなたは、大阪都構想について賛成ですか、反対ですか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 賛成 2. どちらかという賛成 3. どちらとも言えない 4. どちらかと言うと反対 5. 反対
<p>Q17. 前問で「賛成、どちらかと言うと賛成、どちらとも言えない、</p>

どちらかと言うと反対, 反対」とお答えの理由をおきかせください。
(自由にお書きください)

Q18. あなたは、2015年5月17日の大阪都構想の住民投票に関して、橋下徹氏（当時大阪市長、大阪維新の会代表）が「一度否決されたら二度と住民投票をしない」という趣旨の主張していた事実を知っていますか。

1. よく知っている
- 2.なんとなく知っている
3. どちらとも言えない
4. あまり知らない
5. 全く知らない

Q19. 以下のそれぞれの文についてあなたの考えに近いものを選んでください。
(矢印方向にそれぞれひとつだけ) 【7件法】

- 1 大阪都構想の実現により、堺市は廃止される
- 2 大阪都構想の実現により、堺市民の税金が「市外」に流出する
- 3 大阪都構想の実現により、堺の雇用が増える
- 4 大阪都構想の実現により、堺市は政令指定都市ではなくなる
- 5 大阪都構想の実現により、堺の経済は活性化すると思う
- 6 大阪都構想の実現により、二重行政による無駄がなくなる
- 7 大阪都構想の実現により、住民の声が役所に反映されやすくなる
- 8 大阪都構想の実現により、住民サービスが向上する
- 9 大阪都構想の実現により、堺の財政が健全化する
- 10 大阪都構想の実現により、堺の歴史や文化が壊される
- 11 大阪都構想の実現により、堺の自治がなくなる
- 12 大阪都構想の実現により、堺市はよくなる
- 13 大阪都構想の実現により、大阪府はよくなる
- 14 大阪都構想の実現により、日本はよくなる
- 15 大阪都構想の実現により、カジノを含む統合型リゾートの誘致が進む
- 16 カジノを含む統合型リゾートの誘致により、大阪はよくなると思う
- 17 世間の人は大阪都構想に賛成している
- 18 堺の人は、大阪都構想に賛成している
- 19 新聞やテレビは大阪都構想に賛成している
- 20 身近な人は、大阪都構想に賛成している
- 21 橋下徹の実績は評価できる
- 22 橋下徹は「大阪府」の財政を改善した
- 23 橋下徹は信頼できる
- 24 「維新の会」は信頼できる
- 25 竹山修身（現市長）の実績は評価できる
- 26 橋下徹に任せれば、すべてうまくいくと思う
- 27 維新の会に任せれば、すべてうまくいくと思う
- 28 橋下徹を悪く言う人は、間違っていると思う
- 29 維新の会を悪く言う人は、間違っていると思う

Q20. 次のフレーズに対してどのように感じていますか。
(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

1. 全く好ましくない
2. どちらかと言うと好ましくない
3. どちらとも言えない
4. どちらかと言うと好ましい
5. とても好ましい

- 1 大阪都構想
- 2 堺はひとつ 笑顔日本一のまち
- 3 ONE 大阪!
- 4 グレートリセット
- 5 道州制
- 6 二重行政の解消
- 7 地方分権
- 8 堺はひとつ! 堺をつぶすな!
- 9 既得権益の打破
- 10 好きだから、堺を前に

Q21. 以下のそれぞれの文についてあなたの考えに近いものを選んでください。
(矢印方向にそれぞれひとつだけ) 【7件法】

- 1 自分と自分の家族とは一心同体だという感じがする
- 2 家族とは、家族の中の一人一人の人間関係の集合にしか過ぎないと思う
- 3 自分は自分の家族というものをとても身近なものとして自然に感じる
- 4 結婚した人はその新しい家族に自らをなじませるのが当たり前だと思う

Q22. 以下のそれぞれの文についてあなたの考えに近いものを選んでください。
(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

1. 自分自身を優先する
2. ↑
3. ↑
4. どちらとも言えない
5. ↓
6. ↓
7. 家族全体を優先する

- 1 もしも自分一人の利益と家族全体の利益が対立したら、どちらを優先しますか

Q23. 以下のそれぞれの文についてあなたの考えに近いものを選んでください。
(矢印方向にそれぞれひとつだけ) 【7件法】

- 1 自分と自分の属する組織（企業・学校等）とは一心同体だという感じがする
- 2 企業や学校等の組織とは、組織の中の一人一人の人間関係の集合にしか過ぎないと思う
- 3 自分は自分の所属する組織（企業・学校等）というものをとても身近なものとして自然に感じる
- 4 自分は自分の所属する組織（企業・学校等）に自らをなじませるのは当たり前だと思う

<p>Q24. 以下のそれぞれの文についてあなたの考えに近いものを選んでください。 (矢印方向にそれぞれひとつだけ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分自身を優先する 2. ↑ 3. ↑ 4. どちらとも言えない 5. ↓ 6. ↓ 7. 組織全体を優先する
<p>1 もしも自分一人の利益と組織（企業・学校等）の利益が対立したら、どちらを優先しますか</p>
<p>Q25. 以下のそれぞれの文についてあなたの考えに近いものを選んでください。 (矢印方向にそれぞれひとつだけ) 【7件法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自分と自分の住んでいる地域とは一心同体だという感じがする 2 地域社会とは、地域の中の一人一人の人間関係の集合体にしか過ぎないと思う 3 自分は自分の住んでいる地域というものをとても身近なものとして自然に感じる 4 自分が住んでいる地域に自らをなじませるのは当たり前だと思う
<p>Q26. 以下のそれぞれの文についてあなたの考えに近いものを選んでください。 (矢印方向にそれぞれひとつだけ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分自身を優先する 2. ↑ 3. ↑ 4. どちらとも言えない 5. ↓ 6. ↓ 7. 地域全体を優先する
<p>1 もしも自分一人の利益と自分の住んでいる地域全体の利益が対立したら、どちらを優先しますか</p>
<p>Q27. 以下のそれぞれの文についてあなたの考えに近いものを選んでください。 (矢印方向にそれぞれひとつだけ) 【7件法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自分と国家は一心同体だという感じがする 2 国家とは、国家の中の一人一人の人間関係の集合体にしか過ぎないと思う 3 自分は国家というものをとても身近なものとして自然に感じる 4 自分が住んでいる国家のあり方に自らをなじませるのは当たり前だと思う
<p>Q28. 以下のそれぞれの文についてあなたの考えに近いものを選んでください。 (矢印方向にそれぞれひとつだけ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分自身を優先する 2. ↑ 3. ↑ 4. どちらとも言えない 5. ↓ 6. ↓ 7. 国家全体を優先する

<p>1 もしも自分一人の利益と国家全体の利益が対立したら、どちらを優先しますか</p>
<p>Q29. 以下のそれぞれの文についてあなたの考えに近いものを選んでください。 (矢印方向にそれぞれひとつだけ) 【7件法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 堺市は住みやすいと思う 2 堺市にお気に入りの場所がある 3 堺市を歩くのは気持ちよい 4 堺市ではリラックスできる 5 堺市の雰囲気や土地柄が気に入っている 6 堺市が好きだ 7 堺市は大切だと思う 8 堺市に自分の居場所がある気がする 9 堺市にずっと住み続けたい 10 堺市に愛着を感じている 11 堺市は自分の街だという感じがする 12 堺市にいつまでも変わって欲しくないものがある 13 堺市になくなってしまうと悲しいものがある 14 期待できる政治家ならどんな暴言を吐いても問題ない 15 期待できる政治家なら過去に反社会的なことをしていても問題ない 16 期待できる政治家ならどんな嘘をついてもかまわない 17 期待できる政治家の言う憲法改正ならどんな改正でもよい 18 期待できる政治家が言う改革ならどんな改革でもやるべきだ
<p>Q30. あなたは、堺市長選挙（2017年9月）に出馬予定の永藤英機（堺市長選挙「維新の会」の候補者）を知っていますか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. よく知っている 2. なんとなく知っている 3. どちらとも言えない 4. あまり知らない 5. 全く知らない
<p>Q31. あなたが最後に卒業された学校はどちらですか。 (中退・在学中は卒業とみなしてください)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学（旧小・旧高小） 2. 高校（旧中学校） 3. 高専・短大・専修学校 4. 大学・大学院
<p>Q32. あなたの世帯年収は以下のどれに当てはまりますか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ～200万円 2. 201万円～400万円 3. 401万円～600万円 4. 601万円～800万円 5. 801万円～1000万円 6. 1001万円～ 7. 答えたくない
<p>Q33. あなたの業種は以下のどれに当てはまりますか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 農業・林業・水産業 2. 鉱業・建設業・製造業 3. 電気・ガス・水道 4. 金融・保険業 5. IT・通信・インターネット 6. 報道・メディア

7. サービス業
8. 公務員
9. 学生
10. 専業主婦・主夫
11. 無職
12. その他

※性別はモニターの登録情報から自動判定した
 ※本付録中（7件法）とある場合、回答者に対しては、「とてもそう思う」から「全くそう思わない」、あるいは「とても関係する」から「全く関係しない」等の質問から成る、し7件法による回答を求めたことを意味する。

- 析—有権者の選択と大阪維新の会支持基盤の解明—, 関西大学法学論集, Vol.62, No.3, pp1019-1116, 2012.
- 6) 善教将大: 何が維新への支持態度を規定するのか—サーベイ実験による検討—, 法と政治, Vol.67, No.4, pp.845-877, 2017.
 - 7) 萩原剛, 藤井聡: 交通行動が地域愛着に与える影響に関する分析, 土木計画学研究・講演集, 2005(CD-ROM, 2005.
 - 8) 鈴木春菜, 藤井聡: 地域愛着が地域への協力行動に及ぼす影響に関する研究, 土木計画学研究・論文集, Vol.25, pp.357-362, 2008.
 - 9) 羽鳥剛史, 中野剛志, 藤井聡: ナショナリズムと市民社会の調和的關係についての実証的研究, 人間環境学研究, Vol.8, No.2, pp.163-168, 2010.
 - 10) ヴェイユ, シモーヌ: 根をもつということ, 岩波書店, 2010.
 - 11) 渡邊望, 羽鳥剛史, 藤井聡, 竹村和久: 近代社会における人間疎外と大衆性についての研究, 土木計画学研究・講演集, Vol. 40, CD-ROM. 2009.

参考文献

- 1) 土倉莞爾: 「橋下旋風」小考—2011年11月「大阪ダブル選挙」の問題点—, 関西大学法学論集, Vol.62, No.2, pp.263-325, 2012.
- 2) 土倉莞爾: 「大阪都構想」問題の政治学的考察, 関西大学法学論集, Vol.65, No.4, pp.1079-1137, 2015.
- 3) 薬師院仁志: 都市居住者と社会的統合—地域住民か匿名の大衆か—, 大都市自治を問う, 第3章, pp.41-54
- 4) 善教将大, 坂本治也: 維新の会支持態度の分析, 選挙研究, Vol.29, No.2, pp.74-89, 2013.
- 5) 善教将大・石橋章市朗・坂本治也: 大阪ダブル選挙の分

(2018.?.? 受付)

AN EMPIRICAL ANALYSIS ON THE PSYCHOLOGICAL RELATIONSHIP BETWEEN THE ATTITUDE TOWARDS THE OSAKA METROPOLIS PLAN AND REGIONAL IDENTITY

Kaito KOBAYASHI, Ryoshun NUMAJIRI, Yuichiro KAWABATA and Satoshi FUJII

The Osaka Metropolis Plan, a plan of structural reform that Osaka city (or Osaka city and Sakai city) is to be abolished and divided into several wards and a part of duties and budgets are to be transferred to Osaka prefecture, was rejected in the referendum in 2015 but it gained support by a large number of the residents. That support cannot be explained enough by the resident's economic or social advantage because the plan had an aspect of losing their right of self-governance. Some of the previous studies have suggested a relationship between "lower regional identity" and the supports. Therefore, in this study, we conducted a survey in Sakai city before its mayoral election in 2017 and performed a socio-psychological analysis to verify the suggested relationship. The result shows a statistically significant trend that citizens with weaker regional identity support for the plan. Furthermore, it suggests that populism can strengthen the support.